

# ON AIR

NO. 112

放送大学通信 オン・エア

発行月 2013年12月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11  
043-276-5111 (総合受付)



## CONTENTS

博士後期課程設置について	1
特集:創立30周年	3
放送大学の国際活動	13
研究室だより	14
学習センターだより	15
2014年度開設改訂科目紹介	16
インフォメーション	20

## 大学院博士後期課程の 設置について

放送大学長 岡部 洋一



放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻が、2014年4月に博士後期課程を設置します。設置にいたるまでのプロセスと、放送大学における博士後期課程が目指すものなどについて、岡部 洋一学長から皆さんへのメッセージです。

放送大学には学部、大学院が設置されていますが、大学院は修士課程のみであり、かねてより、博士課程の設置が期待されておりました。

一口に博士課程設置といっても、簡単なものではありませんでした。まず、通学制大学と比較し、直接、顔を合せての指導が困難であるという事情があります。これをいかにして遠隔で行うかがまず先決の課題となります。幸いインターネットの利用環境が急速に発展してきましたので、これを積極的に利用することになります。

続いて、こうした環境を前提に、どのような博士課程の学生を育てるのが、次の課題となります。一般の通学制大学にあるような比較的狭い専門分野に特化した研究者を育てる方向の指導でよいのか、放送大学の独自性である教養教育という学部の理念とどのように整合性をとるのか。というような課題の検討を経て、本学の博士課程の方向性は地域におけるリーダー育成のようなもう少し広い視野を持つ学生を育成することといたしました。指導も一人の

教員ではなく、複数の教員の指導を受けることとなります。

さらに、こうした指導に適した教員がどの程度いるのかも問題となります。本学は教養教育を基礎としていますので、多くの通学制大学のように、同一分野の教員がそれほど多くなく、専任の教員は100名を切るという少数精鋭型の教員体制をとっています。またすべての領域に十分な教授層が整っている訳でもありません。そのため、教員の体制をどう組むかが、他の大学に比べ大変困難でした。その結果、学部には存在するが博士課程には存在しない専門分野が発生する、あるいは受入学生数が10名程度が限界といったことが起りました。

こうした多くの難題を一つ一つクリアしていくという経緯の末、博士課程設置に至りました。いよいよ2014年10月の学生から受入れます。当初は少数精鋭でスタートしますが、熱意のある学生の入学を希望いたします。

# 博士後期課程の設置および 学生募集に関する スケジュール等について

放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻は、  
2014年4月に博士後期課程を設置します。

地域社会・職場等における課題解決への取り組みを担う人々を指導しうる、高度な社会人研究者の養成を行います。

- プログラム／生活健康科学、人間科学、社会経営科学、人文学、自然科学
- 募集人員／博士全科生10名(科目生・選科生は募集しません)

## 学生募集に関するスケジュール

学生募集要項公表	2014年1月中旬
出願受付期間	2014年4月中旬～4月下旬
入学者選考	
第1次選考(筆記試験)	2014年6月初旬
第1次選考可否通知	2014年7月初旬
第2次選考(面接試問)	2014年7月中旬
第2次選考可否通知	2014年8月初旬
2014年度入学者の入学時期	2014年10月1日

(2015年度以降の入学者の入学時期:4月1日)

## 修了要件

博士全科生として3年以上在学し、所定の単位数以上を修得して、かつ博士論文の審査及び口頭試問に合格する必要があります。

## 学位の名称

博士(学術)

## 学費(予定)

学費の種類	金額	3年間で修了する場合に必要な最低限の学費
出願時検定料	30,000円	30,000円
入学科	48,000円	48,000円
授業料	44,000円(1単位当たり)	264,000円(6単位)
研究指導料	352,000円(1年間当たり)	1,056,000円(3年間)
合計	—	1,398,000円

※詳細なスケジュール等に関しては、1月中旬に発表します。



## 大学の窓からのご案内

The Open University Of Japan

「大学の窓」は、学生の皆さんの学びに役立つさまざまな情報をお届けする15分番組です！

今後、博士後期課程の最新情報を放送する予定ですので、ぜひご覧ください。

放送時間	テレビ	ラジオ
	12:45～13:00	12:45～13:00
	19:45～20:00	19:45～20:00
	23:00～23:15	23:45～24:00



# 特集 創立 30周年

放送大学は開学30周年を迎え、放送大学で学んだ方は、131万人を超えました。開学からの歩みを振り返り、未来に向けての抱負を語る……。今、そんなさまざまな催しも行われています。放送大学に在職された先生方からのメッセージも寄せられました。総特集で、お伝えします。



## 創立30周年にあたって 放送大学長 岡部 洋一

2013年は1983年4月放送大学が設置されて30周年となります。今でこそ、生涯学習という言葉はかなり一般化してきましたが、当時、20歳前後の若者しか対象としていなかった大学を、何歳からでも勉学可能としようという試みは、かなり革新的ではなかったかと思えます。こうしたシステムを実現にまで至られた当時の関係者の方々の熱意、努力に改めて頭の下る思いであります。

これにより、戦争などの理由により高等教育への進学ができなかった方などが、4年制大学の卒業という機会を得られるようになりました。そして現在は仕事をしながら勉学したい人、学位はすでに持っているが、新たな領域の知識を得たいというような人までも学生として入学するようになり、生涯学習の領域はその範囲を拡げるとともに必要性も増してきております。そして、今や通信制大学のみならず、通学制大学も社会人を対象とした生涯教育に多大な関心を持つ時代になりつつあります。

かつて遠隔教育と言えば、印刷教材と郵送による通信指導に限られていましたが、放送大学では、それに加え、TV、ラジオによる放送授業という新しい教育システムが追加されたことがもっとも画期的なことかと思えます。スタート当初はTV、ラジオの届かない関東以外のエリアではビデオとテープを使った教育を行い、正にマルチメディア教育のさきがけとなったのです。

その後、1998年には衛星を利用したCS放送による全国放送がスタートしました。また全国に設置された「ビデオ学習センター」を基礎に、全都道府県

に最低1箇所の「学習センター」が設置され、全国化が達成されました。この年から数えてちょうど15周年になるのも、不思議な縁かも知れません。2011年10月にはBSデジタル放送がスタートし、関東における地上デジタル放送と合せてTV、ラジオのデジタル化も達成されました。

一方で、2007年より、インターネットによる放送授業の配信が開始され、2015年にはほぼすべての放送授業がインターネット配信されます。また、通信指導も徐々にインターネットを介して提出できるようになるなど、放送と郵便による教育に加え、インターネットによる教育も可能となりつつあります。インターネットについては、双方向での教育も可能となることから、今後の発展が期待されております。

各地に設置された「学習センター」は、教材視聴や、面接授業という直接教師と接する講義を実施する場所、単位認定試験を実施する等、学習を支援する場としてのみならず、さらに一歩前進し、地域貢献の中核としての役割を演じつつあります。すべての都道府県に設置されているということに加え、放送大学の学生の何事にも積極的な活動性が、地域のリーダーを育てる拠点として最適な場となると信じております。そして各センターの独自な地域活動に加え、地域リーダーとなるための必要な知識が育まれるような講義を用意するなど、放送大学の地域貢献という新しい方向を育成していきたいと思っております。

創立30周年をきっかけに、放送大学の益々の発展を祈念するものであります。

# 祝・放送大学30周年

- ① 在職期間
- ② 主な担当科目
- ③ 職名

## 放送大学誕生当時の<sup>おもい</sup>憶

小尾 信彌先生

30年前、東大を定年で辞めた前後に、教材のサンプルをいくつか作られているとお聞きして、放送による教育を正式に柱にしたようなものが日本で生まれると聞いて嬉しいと思ったことを覚えております。アメリカにもそれと似たような機関はあったのですが、日本の教育放送のような、毎日何時間も何時間もやっているようなものではなかったのです。日本でそういったことが始められるのは、教わる側も教える側にとっても非常に励みになりますし、余暇の時間に学ぶことがよいと思います。いろいろな可能性があります。年齢的にも職業的にも制約がなく仕事をしながら勉強することが幅広くできるようになるので、非常によいと思ったことを覚えています。



- ① S60.4.2～H10.3.31
- ② 「地球と宇宙」など
- ③ 第3代目学長

## 生活文化研究会も約30年

酒井 豊子先生

1989年から15年間在職した放送大学で、前任者であり大学時代の恩師でもあった矢部章彦先生から受け継いだのは、放送授業と面接授業のほかに、学生サークル「生活文化研究会」の顧問という立場でした。

研究会はメンバーによる研究発表のほか、工場見学、伝統工芸施設・博物館見学などを活動内容として、ほとんど毎月会合を持ってきました。

世田谷学習センターの閉鎖により活動拠点を失った研究会は大学の登録学生団体ではなくなりましたが、仲間たちは折に触れて集まり情報交換・相互刺激を続けており、研究会の歴史は30年に及ぼうとしています。

生涯にわたって学び続ける姿勢の学生さんたちは放送大学の宝です。私は一般の大学勤務では得られない宝物との身近な交流の機会を、図らずも天からの授かりもののように前任者から引き継いだことの幸運を感謝せずにはられません。



- ① H1.4.1～H16.3.31
- ② 「衣生活の科学」など
- ③ 放送大学名誉教授

## 学びの孤独と共同性

宮澤 康人先生

在職中に私が接したのは、向学心の旺盛な方々ばかりでしたが、単位取得に追われ、印刷教材の孤独な熟読に終わる人が多いように見受けました。印刷教材は有用な知識に溢れていますが、それだけではどうしても受け身になります。自分で問題を発見したり、考える力を育てるには十分ではありません。それを補うために面接授業をゼミ方式にしました。

参加者を4グループに分け、4つのテキストを指定し、参加者には、納得できない点を一つだけ選んで、その理由を文章化するという注文をつけます。一人ずつ発表して全員で質疑応答する(4つのテキストは全員必読)という方式です。受講者を40人に制限したため、履修出来なかったと有り難い苦情を頂くこともありましたが、参加者からは、自分の考えを発表する機会を持た、同じテキストを自分とはまったく違う読み方をする他の学生の考えを知る機会となり、問題発見と知識の根拠づけの仕方の参考になった、と喜ばれました。

学びは孤独な営みですが、共同化によって広がり深まると思います。皆さまのご健闘を祈ります。



- ① H3.3.1～H16.3.31
- ② 「子供の世界」など
- ③ 放送大学名誉教授



放送大学30周年を記念して、特別番組を以下の日程で放送します。

### 『放送大学30周年記念式典・シンポジウム』

2013年12月29日(日)10時30分～  
2014年1月2日(木)20時00分～  
2014年2月8日(土)11時15分～  
2014年2月25日(火)23時15分～

### 『映像で見つめる放送大学の30年』

2013年12月30日(月)10時30分～  
2014年1月3日(金)20時00分～  
2014年2月26日(水)23時15分～  
2014年3月8日(土)11時15分～

### 『学ぶ。世界が変わる。～学生が語るまなびの体験～』

2013年12月31日(火)10時30分～  
2014年1月4日(土)20時00分～  
2014年2月27日(木)23時15分～  
2014年3月16日(日)14時30分～



## 放送大学30周年に寄せて

倉沢 進先生

放送大学創立30周年の由、誠におめでとうございます。私はその30年のちょうど中間の10年弱の間、放送大学にお世話になり、7つの科目の制作に当たりました。一般の大学では余り経験せず、放送大学で体験したことが多かったと思うのは、学習者の皆さんから感想のお手紙を時おり頂いたことです。その一通…。

「自分は理工系の学問を学んできた。おまえの科目『都市と人間』をたまたま取ってみたのだが、こんな学問、こんな視点があるのだと知り感動した。これからもこのような科目を頑張って制作してほしい。」というものでした。

私がこの手紙に感動したのは、放送大学の強調されることの少ない特徴を見事に指摘していたからです。全体として教養学部、つまりさまざまな学問の一見ごった煮のような科目編成の欠点と思われたことが、意外に長所を持っているということです。00学科00専攻の科目群といった固定観念からは考えにくい、自由な科目選択が可能だということです。それが目からうろこの驚き、新しい視点の発見をもたらす、ということです。

科目リストだけでなく、放送大学にチャンネルを合わせただけで、意外な出会いがもたらされるという経験は、皆さんが感じておられることでしょう。そこからもう一歩進めてほしいものです。



- ①H9.4.1～H16.3.31
- ②「コミュニティ論(98)」など
- ③元東京足立学習センター所長

## ある卒業生の思い出

柏倉 康夫先生

千葉学習センターの所長をしていたときの卒業式で、一人の卒業生が告白した話が強く印象に残っている。50歳代後半のこの方は、マイクを持つとこんな体験を披露した。

ある年の第一学期の単位認定試験を受けるために、自分だけが家に残ることにして家族を帰省させた。その途中、不幸にも自動車事故が起こり家族を亡くしてしまった。

彼は茫然として、長い間立ち直ることができなかった。もし単位認定試験がなかったら、自分が車を運転していたら事故は起きなかったと思うと、放送大学が恨めしかった。放送大学を憎みさえした。だが数年が経ち、徐々に日常生活を取り戻すにつれて、もう一度放送大学で学んでみようという気持ちになった。いつか授業に取り組んでいるときは不幸な出来事を忘れていた自分がいた。その後単位を積み重ね、今日卒業することができた。一度は絶望の淵に落ちたのも放送大学なら、そこから救ってくれたのも放送大学だった。彼はそう語るとマイクを置いた。聞いている私たち全員が肅然となった。放送大学に学ぶ一人一人にドラマがある事を痛感させられ、覚悟を新たにした瞬間だった。



- ①H14.4.1～H21.3.31
- ②「マスメディア論(03)」など
- ③放送大学名誉教授、元副学長、元附属図書館長、元千葉学習センター所長

## 私の30年と放送大学

山田 知子先生

放送大学とのお付き合いは長く、昭和58年、大学放送教育実験番組「余暇生活」(主任講師:一番ヶ瀬康子)の手伝いをしたことに始まります。教材作成会議の準備や共同執筆者への原稿催促、写真収集、マイクを担いでインタビューにも行きました。懐かしい駆け出しの頃の思い出です。

その後、専任教員として、平成2年～11年まで在籍いたしました。当時、福祉領域の主任は、社会事業大学学長、社会福祉学会長歴任の仲村優一先生。先生はソーシャルワーカー的受容の精神で、未熟な私を受け止めてくださいました。心から感謝しています。多くの熱心な社会人学生に支えられ、幸せな研究生生活を送ることができました。

14年の時を経て、再び戻って参りました。この間、世界は激しく変化し、日本の位置も変わりました。より一層タフな人材づくりが求められています。細分化され先鋭化する専門研究を深めるためにも、また、成熟した市民社会の礎を築くためにも放送大学の果たす役割は大きいと思います。次の30年へ向けて、新たな挑戦が始まると思っています。



- ①H2.4.1～H11.3.31、H25.4.1～現在
- ②「高齢者福祉論」など
- ③現在、生活と福祉コース、生活健康科学プログラム・教授

# 創立30周年 記念式典開催!



10月29日に東京都港区にあるANAインターコンチネンタルホテル東京において、放送大学創立30周年記念式典が行われました。式典には、上野通子文部科学大臣政務官や桜井俊総務省総務審議官などのご来賓の方々や、退任された先生方など放送大学に縁のある多くの方々のご出席されました。

岡部洋一学長が挨拶で、放送大学が30周年を迎

えたことに対し関係者各位に御礼を述べ、これから放送大学がますます進化・発展していくことを宣言しました。



30年になりましたね、というのと、放送大学をよく見ているので、なんとなく30年、といってもピンと来ないんですね(笑) 僕の場合は1チャンネルだったんですが、今は3チャンネルになったので大変だなと思っています。

丹保 憲仁 先生 在職期間/H13.5.1~H19.4.30 (第4代目学長)



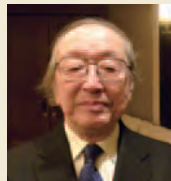
放送大学、30周年おめでとうございます。放送大学が一般市民に非常にレベルの高い教育をするという、日本で唯一の大学じゃないかと思っています。私も5年間かかわらせていただき、もうすでに退職して3年くらいになるんですが、実は放送大学の学生さんと関わると退職しても関係なく学生さんから質問とかいろいろ連絡がありまして、ずーっとつきあいがあり、心情はまだまだ続きをやっているという感じです。

木村 龍治 先生 在職期間/H16.4.1~H21.3.31



この3月で退任したのですが、これからも放送大学が益々楽しみです。

熊原 啓作 先生 在職期間/H10.10.1~H25.3.31



創立30周年おめでとうございます。

野山 嘉正 先生 在職期間/H9.4.1~H19.3.31



杉本 大一郎 先生 在職期間/H9.4.1~H19.3.31

30周年とはずいぶん時間が経ったものですね。出来始めに小尾先生と一緒にのところに、いろいろと作っていたんですが、その頃と比べると放送大学はずいぶん変わったと思います。NIMEが合併したり授業をインターネット配信したりしていますね。いろんな世代の人が勉強するのによい環境になったと思います。放送の授業をインターネットで国際的に発信するということを日本の他の大学はやられていますが、放送大学もそういったことをこれからは考えた方が良いでしょう、という気がしております。

## 式典会場 でひとこと



徳丸 吉彦 先生 在職期間/H14.4.1~H19.3.31

私は放送大学に勤める前にイギリスのオープンユニバーシティとお付き合いがあり、オープンユニバーシティが素晴らしいと思っていたので、それが日本に出来たということが大変嬉しかったです。また専任教員として着任した2002年から5年間、その前に客員教員として10年間は放送大学に関わって番組を作っていましたが、特に専任教員の在職期間は、私の民族音楽学の番組を数多く作りましたので大変感謝しております。その後5年は、ちょうど大学院が出来たばかりだったので、論文指導もしました。放送大学に博士課程がなかったの、指導していた学生に他の大学の博士課程に進学するよう勧めたりしていました。放送大学が大学院を設置したこと、功績は非常に大きいと思います。これから博士課程が設置され、日本の中で遠隔教育がどれだけ重要かを訴えていくことがさらに必要かと思えます。初期の先生たちの熱意はすごかったと思います。それは学歌にも現れていますね。本当に30周年おめでとうございます。



平川 暁子 先生 在職期間/H元.4.1~H14.3.31

私が着任した年が、初めての卒業生を出した年なんです。やっと卒業生が出て落ち着いたかな、という時に入りました。女性の教授として初めて私が入ったようです。今と違うのは、当時の学生さんの多くは若い時に様々な理由で大学に行きたかったけれど、今になって大学に入ったという方が多かったと思います。卒業式に出てみると、大学を卒業できたと喜んでおられた方が多かったの、それがとても印象的でした。



作野 史朗 先生 在職期間/H14.4.1~H17.3.31

三重に学習センターが出来た時は、三重大学の教育学部長をしていました。放送大学が出来た時に、非常に嬉しかったのを覚えております。非常に優秀なスタッフが、レベルの高い授業を分かりやすく講義をしてもらえたというので、県民のために最高だと思っていました。その後、三重大学を退官した後に、放送大学の客員教員から三代目の三重学習センターの所長になりました。

# 学ぶ。世界が変わる。 ～放送大学のチカラ～

放送大学創立30周年記念式典の後、同じ会場で、記念シンポジウムが開催されました。パネリストによる個別の経験や専門を踏まえ、放送大学に期待することについて報告があり、その後、パネルディスカッションが行われました。本号では、その冒頭部をお伝えしますが、とても有意義な内容ですので放送大学チャンネルの放送でのご視聴をお勧めいたします。(敬称略)



パネリスト 湖月わたる (放送大学卒業生・女優)

早川 信夫 (NHK解説委員)

中島 尚正 (海陽中等教育学校校長・元放送大学副学長)

崎元 達郎 (放送大学熊本学習センター所長・前熊本大学長)

岡部 洋一 (放送大学長)

司会 吉田 光男 (放送大学副学長)

まず、司会の吉田先生から、テーマの「学ぶ。世界が変わる。」は放送大学生の作であることが紹介され、この「学ぶことによって世界が変わること」が

「放送大学のチカラ」である、では私たちにはどのような力があるのか、について議論を深めたい旨のお話がありました。以下、放送大学との関わりを含めて、各パネリストのご発言を抜粋・要約します。



吉田光男副学長

**湖月**—私が放送大学で学ぶ契機となったのは、15歳の時、宝塚音楽学校に入学する際に父と交わした約束「通信教育で高校卒業の資格を取る」でした。そこでNHK学園に入学。でも宝塚歌劇団に入ると、時間が合わず結局断念。それから10数年経て、学園の同級生から「高校、そして大学も卒業した！」との手紙を貰い、大学というものに興味を持ったのです。宝塚退団後、女優の道を歩み始めた時に父との約束は果たしましたが、大学で学ぶ夢が捨てきれず、「舞台を続けながら大学で学ぶ手段は？」と父に相談したのです。すると父は、待ってましたとばかりに「全ての人に門を開いているのが放送大学だ」

と。父は当時、放送大学大学院に在籍していたのですが、その父の熱く語る姿に心打たれ入学を決めたのです。入って何より嬉しかったのが面接授業。直に、それも名だたる先生方の講義が聴ける。さらに感動したのは、生涯学習について学ぶ授業でしたが、“学び”を今後どう活かしていくか、世代を超え職業を超え、みんなが生の声をぶつけてディスカッションし、まさに人生を学んだ思いでした。全国公演の際には各地の学習センターで勉強し、そこにいる学生の方々に「一人じゃない。みんなも頑張っているんだ」と勇気を貰いました。ここで学んだことは、舞台の仕事に日々の生活に活かされています。ニュースを見るのが楽しくなり、分からないことは「調べてみよう」と行動を起こすようになりました。“学び”によって人生が少しずつ豊かに、見える世界も変わってきた、ということを実体験しています。



湖月わたる氏

**早川**—放送大学大学院を卒業された方にラジオにご出演いただき、お話を伺う機会がありました。その方は、子育て・仕事・学業の、二足ならぬ三足の草

鞋を履きながら、家族が寝静まった夜中や早朝に起きて勉強されたそうです。端からは“大変”に見えても、「周りに拘束されず学べ、実は自分に合っていた」と。文献の研究だけで修士論文を書き上げる予定が、どんどん興味が深まり、修了を1年延ばして海外までフィールドワークに出かけ論文を書き上げたそうです。この方の、困難の中で“学び”の深さに触れ、さらに“学び”の深さが進んでいくことに驚かされました。論文は終わりではなく次のスタートになった、というお話も印象的でした。「放送大学の役割」という点で申し上げますと、若者にとってのセーフティーネットとしての役割が大きい、と。いつでもどこでも—そして安い。大学全入の時代と言われ、学費の安い夜間大学を志望する若者が増えていますが、国立大学の夜間部は法人化によって減り、進学を断念せざるを得ない若者も増えていきます。そうした中、放送大学には“最後の砦”としての役割があると考えます。

早川信夫氏



**中島**—初めて放送大学に来ました時、キャンパスに学生が一人もいないことに戸惑いました。その後、東京多摩学習センターの初代所長を仰せつかり、毎日のように図書館に来て熱心に、朝早くから勉強する姿に感銘しました。中でも印象に残っているのが、80歳で入学、95歳で学位を取得されたKさん。洋服の仕立て職人をなさっていて高等教育を受ける機会がなかった。でも自学自習の気持ちは若い頃から培っておられたようです。この人生の大先輩に贈る言葉を考えていた時に、センター近くに100歳を超えてなお活躍された木彫家・平櫛田中の美術館がありましたので、そこで手に入れた色紙を差し上げました。「六十七十ははなたれこぞう／おとこざかりは百から百から／わしもこれからこれから」。当時の放送大学は、このKさんのように大学卒業が一つの動機でしたが、現在はそういう方が減っているようです。加えて、インターネットの浸透により一般大学も授業の配信を行っており、競争です。放送大学は教養



中島尚正氏

学部一つの大学です。一般大学は専門学部に特色を出そうとしていますが、領域が細分化され狭く全体が見渡せない。深さは専門教育ほどではないが異分野のことも分かる、異分野との橋渡しをするような教養教育が確立すれば生涯教育と結びやすい、と考えます。

**崎元**—今学期、熊本学習センターではご両親も放送大学生という新入生を迎えました。一般大学では親子そろって在学というのはなかなかありません。放送大学の特徴を述べますと、まず文学部心理学科以外で心理系科目をこれだけまとめて履修できる大学はない。全国の認定心理士の一割強が放送大学の卒業生で、このように資格科目を多く提供していることも特徴です。編入も可能でダブルスクールという形で研鑽できます。支援が必要な人にも配慮され、肢体不自由者334名をはじめ多くの障害者がしっかり学んでおられます。この意味でもセーフティーネットの役割を果たしています。世代を超えた学生間の交流…同世代だとうまくいかないが年長の人とはうまくいくということもある訳で、これも非常に大きな特徴です。ローカル色豊かな地域学を前提にした面接授業も放送大学だけのものです。



崎元達郎所長

この後、吉田先生の軽妙な司会ぶりが会場の笑いを誘う和やかな雰囲気の中、各パネリストの方々から“放送大学のチカラ”について多様な、そして温かいメッセージが贈られました。また後半では、岡部学長より「バーチャルキャンパス」という言葉が飛び出し、“放送大学の未来”について興味深いお話も展開されました。



岡部洋学長





# 学ぶ。世界が変わる。 ～学生が語るまなびの体験～



2013年9月23日に、東京文京学習センターで「学ぶ。世界が変わる～学生が語るまなびの体験～」の番組を公開収録しました。司会は高橋和夫教授と奈良由美子教授、進行は斎藤綾乃アナウンサーです。全国から集まった8名の学生の方たちが、ご自身の学びについてお話され、またそれぞれ自分の学びに関わる“宝物”を紹介してもらいました。

ゲストとして、岡部洋一学長、北海道学習センターの筑和正格所長も出演しました。岡部学長はツイッターで収録の様子を細かく伝え、フォロワーから「学習方法が参考になった」「8人の話を聞いてまだまだ頑張らなければならないと思った」というような反響がたくさん寄せられました。

## 仕事が変わる・広がる

川嶋 淳司さん（総合文化プログラム修了）

大学を卒業後も中東の勉強を続けようと思い、高橋和夫教授のご指導を仰ぐために放送大学大学院へ入学しました。大学院在学中の半分はクウェートで過ごし、現地での調査をもとに修士論文を提出し、2007年に大学院を修了しました。入学時は学校の教員でしたが、中東での海外生活を経て、今では外交が仕事となり駐日イラク大使館で働いています。

私の宝物は、中東の楽器「ウード」、現地で集めた書籍、そしてアラブの民族衣装です。大学院での学びを思い出させてくれる品々です。30周年を迎える放送大学は、人間に例えれば私と同じ年齢です。この「同級生」に負けないよう、ますます研鑽を積みしたいと思います。



清永 麻子さん（生活と福祉専攻卒業）

生活と福祉専攻を卒業しました。ただの職業だった「看護」を学び直すことになったのは2006年。学会での発表をきっかけに、「学ばなければならない」と思い、放送大学に入学しました。卒業研究を仕上げ無事卒業することができました。卒業した翌年度に学位授与機構に申請をし「看護学位」を取得しました。

私の宝物は、この「看護学位記」です。この学位記を取得するために、自分の十数年の看護師としての働きを振り返り、また多くの方々に支えられました。私にとっては人生を変えた学位記です。



## 放送大学が生きがい

橋本 泰孝さん（発達と教育専攻、生活と福祉コース卒業、現・全科履修生／東京文京学習センター所属）

中学校を卒業後、様々な職業を経て、塗装業の職人として働きながら、放送大学で学びを続けています。全コース制覇の名誉学生を目指しながら、東京文京学習センターでピアサポーターとして学生からの相談に乗ったりしています。学生同士の繋がりが学生生活をより良くしていくと考え、ここから友達の手（和）を広げていきたいと思っています。

勉強を始めた当初はなかなか単位が取れず、どのように勉強しようかと考え、仕事中に放送授業を聞くことを思いつきました。このMDテープに放送授業を録音し、仕事中に聞くことで勉強がはかどりました。このMDテープが私の宝物です。これは私の学びの証でもあります。



松本 和也さん（産業と技術専攻、自然の理解専攻、社会と経済専攻、発達と教育専攻、生活と福祉専攻、人間と文化コース卒業、現・全科履修生／兵庫学習センター所属）

私は、全コース修了し「名誉学生」になりました。また、面接授業で訪れた学習センターは50カ所です。ここまで続けられたのは、「名誉学生」という目標や、学習センター巡りといった楽しみを見つけたからです。私の宝物は学位記と名誉学生証です。現在は、新設の情報コースに所属して7度目の卒業を目指しています。

なぜ学ぶのかと聞かれると「そこに放送大学があるから」としか言いようがありません。これから先、また新たなコースを作ってくださいれば、そこで学びたいと思います。



## 学びを支えに

澤口 ミネ子さん (生活健康科学プログラム修了、現・選科履修生／岩手学習センター所属)

2011年3月11日の東日本大震災で、住宅が流され生活の一切を失ったのが、放送大学大学院の入学金を納めた翌日でした。保育士・園長として保育園に勤務し、退職後は保育園のボランティアとして関わり、子育て中の親子支援の研究論文作成を行う予定でしたが、震災により地域環境の変化で研究の方向性が見えなくなってしまいました。しかし奈良由美子教授にアドバイスをいただき、保育園の被災者支援研究と方向性を変えました。そして、論文のために伺った保育園や保育士さんも被災していたにもかかわらず、協力していただき、研究論文を仕上げることができました。その研究論文が私の宝物です。またもう一つの宝物は、震災の面影を残した土まみれの「認定心理士証」です。津波で流されたにもかかわらず、手元に戻ってきました。これは震災前の私を証明する貴重なものだと思います。



谷口 容子さん (発達と教育専攻、人間の探究専攻卒業、現・全科履修生／岐阜学習センター所属)

私には3人の子どもがいます。長男と長女は発達しょうがいの一つである「アスペルガー症候群」というハンディをかかえています。娘はとても内向的な子で、友達の輪の中に入ることができませんでしたが、その時は大好きな絵を描いていました。その後、素敵な出会いがあって、個展を開くことになり、4年後には息子も加わって兄妹展としました。2人の絵は、家族の絆を取り戻す力をも与えてくれました。ハンディを持っている子どもとの日々の暮らしは平穩ばかりではありません。でも2人がいたから、いろいろな体験ができました。普通なら会うことのかなわないような方とも巡り合えました。



これからも隠すのではなく、発達しょうがいのことを伝え、理解してもらえるようにすることが、私のライフワークだと思っています。私の宝物は「子どもたちの描いた絵」です。長男も放送大学に入学し、娘はすでに学んでいるので、これからは親子3人で放送大学で学んでまいります。

## 世界が変わる・広がる

田中 一典さん (自然の理解専攻卒業、現・修士選科生／北海道学習センター所属)

通信関係の会社で情報セキュリティのマネジメントに関する仕事に従事していますが、仕事のやり方、進め方に淀み、行き詰まりを感じていましたが、そんな気持ちから抜け出すために基礎から勉強してみようと思い、どうせなら今の仕事に役立ち、自分が仕事を引退した時に、昔からやりたかった自然、生物、環境のことを一緒に学べる大学はあるのかと探したのが、放送大学でした。私は北海道に生息するザリガニ類の生息環境に関する調査研究とニホンザリガニ保全に関するボランティア活動をしています。放送大学では絶滅に瀕しているニホンザリガニの保全に関するテーマで卒業研究も履修しました。卒業研究の取り組みの中で、次なる課題や研究テーマを見つけることができました。今後は野生生物の生態と人間の文化や社会的側面を絡めた研究を行い社会に貢献したいと考え、更なる上位の大学院にて勉強を積み重ねていくことを決意しました。



私の宝物は長谷川真理子著の『生き物をめぐる4つの「なぜ」』です。自然、生物について、疑問を感じた際に読み、さらに興味を感じるようになりました。

木村 寛子さん (人間の探究専攻卒業、現・全科履修生／東京文京学習センター所属)

放送大学が学生を受け入れたのが昭和60年度4月、最初の卒業生を送り出したのが昭和63年度でした。私の宝物は第一回卒業式の「卒業証書」です。私は昭和33年に貿易商社に入社し、当時はまだ男女差別、学歴差別が歴然としていた時代でした。性差別はとにかく、学歴は努力次第で取得できると考え、機会を求めていましたところ、放送大学開学のニュースを聞き、これこそ待ち望んでいたことだとの思いで試験放送から聴き始めました。最初の卒業生になるため、かなり頑張りまして、「人間の探究」専攻を卒業しました。卒業後、引き続き「生活と福祉」専攻に入学しましたが、「人間の探究」は哲学・文学・芸術・歴史など非常に幅広い分野なので、「生活と福祉」の関連科目よりそちらに目が向いてしまい、未だに二回目の卒業に至りません。



放送大学には多種多様な経歴の持ち主の学生が集まっていて、話し始めると話題はたちまち広がり高みに向かいます。多くの方が支えてくださるので可能な限り放送大学生でいようと思います。



# 全国で記念公開講演会開催!

創立30周年を記念して、全国の学習センターで記念公開講演会を実施しました。

## 石川学習センター

### 9/29(日)「師の教えは今も宝」 講師/濱元 英一(氷見鯛定置網網元、元日本テレビ放送網ニュース編集部長) 場所/放送大学石川学習センター

氷見鯛は魚の代表ブランドとして全国的に知られています。氷見の定置網漁法は約400年前に支倉常長等によってスペインから日本へもたらされました。冬、日本海を南下してくるブリの軍団を能登半島がさえぎり、富山湾の深さ、氷見近辺の大陸棚的ななだらかさが、氷見沖に最適な条件を与えてくれたようです。一旦網に入った数千尾の軍団も、その多くはまた出て行く。残された3割程度の水揚げが、資源を守りながらの環境に優しい世界最先端漁法として注目され、東南アジアへの技術輸出・指導には、現地から感謝されています。講演終了時、今冬の寒の頃に、講師の家へ「鯛しゃぶ」を食べに行く計画を紹介すると、直ぐに参加申込みがなされて、予定の半分が埋まる大反響ぶりに、講師もびっくりされていました。



## 岐阜学習センター

### 10/26(土)「学生教育とモータースポーツ—ラリー(泥の教室)—」

講師/坂井 歩氏(高山自動車短期大学准教授) 場所/高山市図書館「煥章館」

高山市・高山自動車短期大学と連携して、「学生教育とモータースポーツ—ラリー(泥の教室)—」と題して高山自動車短期大学坂井歩准教授による公開講演会を古い町並にある高山市図書館で開催しました。飛騨高山の魅力を多くの皆様に周知することを目標としているため6報道機関の告知報道もあり、県内外から約70人の参加がありました。

短大のラリー総監督でもある坂井先生から、学生メカニックからみたモータースポーツについて、9月に出場した北海道ラリー参戦を事例にあげて講演があり、参戦車両の深刻なトラブルをチームワークで乗り越え走完了時の学生メカニックの歓喜の姿は、参加者に大きな感動を与えました。ラリー参戦車両の展示は、参加者・来場者の注目を浴びました。また、ナビゲーターが講演会の企画段階から運営まで献身的に参画している姿は、放送大学生の魅力として参加者から賞賛を得ることができました。



## 大阪学習センター

### 10/25(金)「学ぶことの意味」 講師/鷲田 清一(大谷大学教授、元大阪大学総長) 場所/グランフロント大阪ナレッジキャピタル カンファレンスルーム

近畿ブロック学習センター主催で10月25日(金)、18時からグランフロント大阪において、鷲田清一先生(大谷大学教授、せんだいメディアテーク館長、元大阪大学総長、)をお迎えし、「学ぶことの意味」の演題でご講演をいただいた。第1部が講演、第2部は鷲田先生を囲み、藤原京都学習センター所長、林大阪学習センター所長の3人によるトークショー。

鷲田氏は講演で、「教養」の意味を問い直し、広く知識を得るにとどまらず、身体・行動を通して身につける「技」としての素養、修養の見直しについて、さらに福沢諭吉のひとは「一人にて主客二様の職を勤むべきものなり」とのことばを引用して、「客」ではない「主」としての「市民性」の重要性を語り、また「学びに性急に意味や目的を求めてはならない」として、資格や利得に繋がらずとも「一步一步少しでも見晴らしのきくより高い場所に立つこと」、そのことが「学び」であると語られた。講演、トークショーはともに限られた時間であったが、和やかななかにも具体的に踏み込んだやり取りもあって、一般の方も含め130名余の参加者全員が最後まで熱心に耳を傾けた。



## 和歌山学習センター

### 11/10(日)「生涯学習の実践—ヒューマンカレッジの会と学生が協働で取り組むシャッター通り再生」 「<大学=18歳入学>モデルの打破—新しい大学、活力ある社会に向けて」

講師/足立 基浩(和歌山大学経済学部教授)、山本 健慈(和歌山大学長) 場所/和歌山大学松下会館2階ホール

11月10日(日)、『放送大学創立30周年記念特別公開講演会—生涯学習と放送大学—』を開催しました。当日は、足立基浩氏(和歌山大学経済学部教授)による「生涯学習の実践—ヒューマンカレッジの会と学生が協働で取り組むシャッター通り再生」と山本健慈氏(和歌山大学長)による「<大学=18歳入学>モデルの打破—新しい大学、活力ある社会に向けて」の2つの講演が行われ、質疑応答も含め予定の時間を大幅に超えましたが約60名の参加者は終始熱心に聴き入っていました。また、講演会終了後、講師も交え和歌山学習センターの新旧教職員と卒業生や在大学生で懇談会を行い活発な意見交換が行われました。





## 鳥取学習センター

# 10/13(日)「サバンナの地で次代のマトマイニ(希望)を育てる」

講師/菊本 照子氏(ケニア・ナイロビ在住マトマイニ孤児院院長) 場所/市役所駅南庁舎2階・鳥取市立中央図書館多目的ホール

若良二鳥取学習センター所長と長年親交のあるケニアのナイロビ近郊にお住まいのマトマイニ孤児院院長の菊本照子さんをアフリカからお招きして講演会を開催しました。当日は、予定の80名を上回る多くの聴衆に御来場いただく大盛況となりました。菊本さんの活動は、孤児やシングルマザーの養育だけではなく、教育し、経済的に自立して社会復帰できるまでを、楽しみつつ献身的に行っておられ、来場者の皆さんに驚きと感動を与えました。講演から、国際情勢を始め環境問題や経済問題など多くの学びの提示を受けました。多くの方々から放送大学の資料請求もいただき、放送大学創立30周年記念として、来場者の方々に放送大学をしっかりと広報できました。



## 島根学習センター

# 10/5(土)「政治は再生するか」

講師/御厨 貴(放送大学教授) 場所/市民活動センター交流ホール(松江市白濁本町43スティックビル5F)

10月5日(土)に放送大学30周年記念行事として「政治は再生するか」の演題で、放送大学御厨貴教授による公開講演会を開催しました。学生、卒業生、一般の方合せて80名の参加があり、御厨先生は、戦後政治史や現在の政局、今後の見通しなど今最も気になるテーマをわかりやすく解説され、参加者は熱心に聞き入り、講演後に設けられた先生と学生・卒業生との交流会でも、時間ぎりぎりまで活発に意見交換が行われました。



## 香川学習センター

# 11/9(土)「韓流歴史ドラマと韓国と日本の歴史認識 ～ドラマと史実のあいだ～」

講師/吉田 光男(放送大学副学長) 場所/香川学習センター

11月9日(土)に、ほうゆう会(香川SCの学生団体)設立20周年記念の協賛行事として、「韓流歴史ドラマと韓国と日本の歴史認識～ドラマと史実のあいだ～」と題して吉田光男副学長による公開講演会を開催しました。当日は、机席だけではあふれる盛況で、85名の参加がありました。

具体的なドラマを踏まえたり、史実をお示しいただきながらの吉田副学長のお話は、大変興味深いものでした。近世韓国史研究と現代韓国社会ウォッチングという複眼的な立場から、韓国と日本の歴史認識に切り込んでいかれた takdir では、吉田先生のお話に引き込まれていき、予定を15分以上こえるご講演でした。その後の記念式典も、吉田副学長のご臨席をえて盛大におこなわれました。



## 鹿児島学習センター

# 10/24(木)「看護職のための公開講演会と学位取得(大卒ナース)・心理学資格取得説明会」

講師/星 薫(放送大学准教授) 場所/鹿児島学習センター

創立30周年記念行事の一環として鹿児島県看護協会のご後援をいただき、「看護職のための公開講演会と学位取得(大卒ナース)・心理学資格取得説明会」を開催しました。公開講演会では、星薫放送大学准教授から「物忘れの心理学」と題して記憶の仕組みと物忘れとの関係について大変興味深いお話があり、学位取得・心理学資格取得説明会では、放送大学広報課からの詳細な説明と資格取得中の方の学修成果レポートの作成や学びの体験談等がありました。看護職の方を中心に一般の方も含めた86名の参加者からは活発な質疑もあり、皆、真剣に聞き入っておられました。やはり心理学や学位取得への関心が高いことがよくわかりました。



# 日中韓セミナー AAOU年次大会 ICDE世界大会

放送大学教授 三輪 眞木子



第5回日中韓セミナー出演者全員による記念撮影

放送大学では、海外公開大学との連携の一環として、日中韓セミナー、AAOU年次大会、ICDE世界大会に参画しています。

日中韓セミナーは、放送大学（OUJ）と韓国放送通信大学校（KNOU）および中国国家解放大学（OUC）との国際交流協定締結をきっかけに、2009年以来毎年、3カ国が各国持ち回りで開催しています。2013年には放送大学の主催で9月5日に第5回の日中韓セミナーが放送大学附属図書館3FのAVホールで吉田副学長の総合司会により開催されました。今回は、OUCが都合により不参加となり、放送大学と韓国KNOUの2機関のみでの意見交換となったため、お互いに知りたいことを本音で議論することができました。セミナーでは、「高齢化社会への対応」、「学生支援システム」、「教材作成システム」、「インターネット講義」の各テーマについて、意見交換が行われました。最後の総括討論では、セミナーに聴衆として参加した本学の学生からも好意的な感想が寄せられ、学生にとっても意義ある機会となったようです。

アジア公開大学連合（AAOU）は、遠隔教育の発展と、各国の遠隔教育機関相互の交流を推進するために、1987年に設立されました。会員は主にアジア太平洋地域・中東地域諸国の大学や教育研究機関等および個人（正会員44機関、準会員22機関、個人会員2名）で構成されています。各国の会員機関が主催する総会が毎年開催されており、昨年はAAOU2012が日本の放送大学により幕張で開催されました。2013年10月1～3日にはパ



第27回AAOU総会で司会をする本学岡部学長

キスタンのイスラマバードにあるアラーム・イクバル公開大学で第27回総会が開催されました。この会議では、フェイスブックなどのソーシャル・メディアやスマート・フォンの教育への利用に関する報告が多く、新しい機器が通信制教育を活性化させている様子が感じられたようです。

国際遠隔教育会議（ICDE）は、遠隔教育に関する情報の交換やその振興を図るために1938年にカナダで設立されたユネスコの



非政府団体で、ノルウェー政府から運営資金補助を受けています。現在の加盟国は60カ国以上の142機関で、日本の放送大学は、2000年より会員として加盟し、2～3年ごとに開催される世界大会に参加しています。また、会員機関や協力組織の意思決定者（学長や役員等）が主に集い、遠隔教育に関する戦略や方針等の情報共有を行うために毎年開催されるStanding Conference of President (SCOP) 国際会議にも参画して、会員機関同士の交流を深めています。2013年10月16～18日には、中国天津にある梅江会展中心で第25回ICDE世界大会が開催されました。この会議では、マスコミ等でも取り上げられているMOOCsへの取り組み等の将来的なビジョンを語る多くの発表があったとのことでした。

放送大学の国際交流活動は、上述した国際会議への参加だけでなく、内外の有識者を招いて毎年開催する国際シンポジウム、交流協定に基づく海外の公開大学との学術交流や、海外の大学や政府機関からの訪問受け入れ、本学教員の海外派遣にも積極的に取り組んでいます。

第25回ICDE世界大会に参加した  
本学の広瀬教授、岡部学長、苑教授（左から）

## 環境問題を幅広く考える。そして解決する。

当ゼミの看板は環境です。環境に関連する分野は極めて多様です。私が専門とする工学から、生物学や化学、そして法律や経済、さらには医学、薬学まで関係します。では、学生さんは？当然のことながら、理工系の方も、また人文系の方もいます。地域も、職業も、また年齢もばらばら。

ですから、修論テーマも実に多様です。そんな多様なテーマと人間でゼミが成り立つか？しかし、環境問題で重要なことは、まずその問題のとらえ方です。これは同じ。しかも、一つの狭い分野に限定して考えることはほとんど不可能です。いろんな人が、いろんな見方をする、考える。そこから環境問題を正しく認識し、解決策を見出そうとするゼミです。

### ●学生の声●

私は、社会人になって10年経つが、卒論以外の論文を書いたことがない。右も左も分からない中、環境分野のことを学びたい一心で大学院に飛び込んだ。

社会と産業コース 社会経営科学プログラム 教授 岡田 光正

以前、テーマに行き詰ったことがあった。先生は「今まで分かっていること、分からないことは何か？あなたはどう思うか？」と辛抱強く私に質問してくれた。その結果、何が問題で、どこを目指すか私に気がつかせてくれた。先生は、難しいところを噛み砕いて、私に指導して下さる。十人十色という言葉があるように、人それぞれ解釈が異なる。先生が指導される場合も、生徒の特徴を掴んで一人一人にあわせた上手な対応の仕方をしてくださる。今後、先生にご指導して頂いたことを、人生の道標としていきたい。(平綿美紀)



ゼミ風景

## よりよい学習環境の構築を目指して

私の専門は教育工学と呼ばれる分野で、その中でも、ICT(情報通信技術)を活用した高等教育・生涯教育(学習)の改善をテーマにしています。現在は主に、eラーニングシステム・コンテンツや、教育情報の流通・検索システムに関する研究開発を行っています。

さて、情報学プログラムは今年度設置されたばかりで、今年の4月に第1期生を迎えました。修士の研究では、教育・学習に限らず、コンピュータやインターネットに関するテーマを幅広く取り扱う予定です。研究指導は、情報学プログラムらしくICTを駆使して行っています。ゼミをオンラインで行うと、対面よりも話が脱線しづらく、密度の濃い議論ができると感じています。

### ●学生の声●

ゼミはひと月半おきに、森本先生と院生2名の少人数で行われております。入学前は、ゼミの度に石川から幕張の本部まで通う覚悟でいたのですが、Web会議システムを使用し、成果物の動画や画像はDrop-

情報コース 情報学プログラム 准教授 森本 容介

box\*を用いて共有するなどして、距離的な不都合をほとんど感じずに研究指導を受けることができます。ただ、遠隔でも快適に指導が受けられる環境のため、4月のオリエンテーション以来、全員で直接集まる機会がないのが少し残念(?)に感じることも。ゼミでは、各自が論文のテーマや進捗状況について資料にまとめて報告し、それについて話し合います。自分では思い付かない考え方や話を聞くことができ、毎回、非常に興味深く、良い経験が出来ていると感じております。(高永潤)



オンラインゼミの様子

\*オンラインでファイルを共有できるサービス

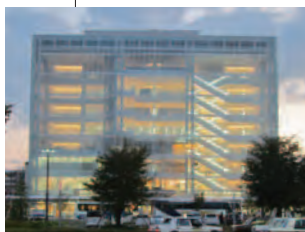
## 福井学習センター

福井市手寄1丁目4-1(AOSSA7階) 〒910-0858  
JR福井駅東口から徒歩約1分 電話:0776-22-6361

福井県は京都に近い「若狭」と、そこから山を越えた「越前」から成ります。古くから関西との繋がりが強く、若狭では、東大寺の「お水取り」に水を送る「お水送り」の行事が今も行われています。越前には国府が置かれ、赴任した父に伴って紫式部も一時住み、「源氏物語」にはその地名が見られます。

江戸時代には、柴田勝家の城跡に、家康の次男秀康が68万石越前松平藩を開きました。江戸東京博物館に展示されている巨大かつ絢爛豪華な福井藩上屋敷の模型から当時の勢いが伺えます。

福井学習センターは、JR福井駅東口広場、福井城桜木御門跡に立てられた再開発ビルの7階にあります。商業施設、市立図書館・交流プラザ、県民ホール等と同居し、福井の数少ない賑わいの場所です。県外の学生にとっては、ビルの前に永平寺や東尋坊に向かうバス



夕方の福井学習センター

や電車の発着所もあり大変便利です。

福井学習センターには、現在約650名の学生が所属しています。客員教員会議、同窓会との懇談会、折々のアンケート調査やシンポジウム、学生が自由に投書する意見箱等を活用し、毎月教職員が打合せを行いながら、きめ細かな学生支援に努めています。

最近、福井大学と共催で、公開ゼミを始めました。参加者と共に少し難しくとも最新の話について議論する会ですが、毎回好評で、iPS細胞はまだしも、ヒッグス粒子について、定員50名の教室が一杯になり、2時間30分の活発な議論が展開されたのには驚きました。

幸い、福井学習センターに対する学生や卒業生の評判は大変良く、これからも新たな要望にどんどん応えていきたいと思っています。



公開ゼミ「ヒッグス粒子」

## 山口学習センター

山口市吉田1677-1(山口大学吉田キャンパス内) 〒753-0841  
JR山口線湯田温泉駅下車徒歩約25分 電話:083-928-2501

山口学習センターは、山陽小野田市(山口東京理科大学構内)から、山口市(山口大学吉田キャンパス内)に移転し、今年で3年目を迎えました。学習センターは山口大学吉田キャンパスの中でも最も風光明媚な場所に位置しており、周囲には桜の木々や、ハス池、里山を整備した公園等、自然がいっぱいの学習環境です。



山口学習センター

地域が持っている歴史・民俗・文化等の題材を取り上げた面接授業を平成19年から開講しています。初回の「萩まちじゅう博物館」は明治維新発祥地の萩に関わる人間とまちづくりをテーマにしたもので、全国各地(遠くは東北)から学生が参加して講義を受け、大人気でした。その後、下関市(壇の浦の合戦)、山口市(大内文化)、防府市(歴史の宝庫)、長門市(金子みすゞ)、宇部市(野外彫刻)、岩国市(錦帯橋)等それぞれの地域が持っている文

化・歴史資産を題材にし、今年度1学期は、長門市俵山温泉で北浦地域の風土とそ中でどのような暮らしをしていたかを学ぶ民俗学の講義を行いました。地域と連携した面接授業は定員枠を超える人気で、今後も続けていきたいと思っております。

学生間の交流の場としては、研修旅行・サークル活動等がありますが、中でも学生の皆さんが楽しみにしているものとして、研修旅行があります。毎年、各地の文化資産等を訪ねており、昨年は、平家・平清盛由来の安芸の宮島厳島神社に行きました。今年度は、幕末の長州藩の財政改革に取り組んだ村田清風、童謡詩人の金子みすゞを訪ねる旅も計画されています。皆さんが参加し易いような新しい企画を学習センターとしても支援して行きます。



学生研修旅行(安芸の宮島厳島神社)

## 歴史と人間('14)

放送大学副学長 吉田 光男 放送大学教授 (人間と文化) 杉森 哲也



吉田 光男 教授



杉森 哲也 教授

本科目「歴史と人間('14)」は、前科目「歴史と人間('08)」の後継科目です。前科目の主任講師が引き続き講義を担当するとともに、基本的な構想もまた前科目のそれを継承しています。本科目の基本的なねらいは、「歴史と人間」という科目名に端的に示されているように、人間を通して歴史を考えることにあります。

本科目の最大の特長は、日本史・アジア史・西洋史という地域の枠組み、古代から近代までという時代の枠

組みを越えて、幅広い視点から歴史と人間について考えていることです。講義で取り上げる人物は、生きた地域も時代もさまざまです。各講師がなぜその人物を取り上げたのか、それをどのような視点から論じようとしているのか、ぜひこの点に注目していただきたいと思います。本科目の学習を通して、歴史への関心を深め、歴史を学ぶ楽しさを知っていただければ幸いです。

## 教育心理学概論('14)

放送大学教授 (心理と教育) 三宅 芳雄 東京大学教授 (放送大学客員教授) 三宅 なほみ



三宅 芳雄 教授



三宅 なほみ 教授

教育心理学は、人が賢くなる仕組みを明らかにして、人をより賢くするにはどうしたらいいかを探る研究分野です。人は生まれつき身の回りにあるものごとや自分が経験したことの中に規則を見出す仕組みを持っています。自分の経験と他人から聞いたことを結びつけて視野を拡げる仕組みも使えます。研究手法としては、こういう仕組みを詳しく知るために人がさまざまな課題を具体的に解決する過程を観察・分析してその過程を引き起こす認知過程を解明し、見つ

かってきた仕組みを実際活用して課題解決を支援してみても確かさを確認します。こうすることで、教育心理学の研究成果は、学校など学びが起きる現場で人の賢さを育てることに繋がります。最近では、複数の人による学びの過程や、課題解決に適した環境やツールの研究、また学びの過程をこれまでよりも広範囲で長期かつ詳細に記録して分析する研究などが盛んになっている発展的な分野です。

## 情報ネットワーク('14)

放送大学准教授 (情報) 芝崎 順司



芝崎 順司 准教授

皆さんの中にも、ご自宅でパソコンやゲーム機器を利用されたり、外出先で携帯電話やタブレット型の機器を利用される方もいらっしゃるかと思います。これらの機器は、情報端末として、情報ネットワークにつながることで、様々なサービスを利用したり、家族、友人、先生、時には見知らぬ人ともコミュニケーションをとることができるようになります。またクラウドコンピューティングといわれる時代をむかえ、医療、ビジネス、マーケット、教育、交通、エンターテインメントなど社会の産

業のあらゆる分野でも情報ネットワークの果たす役割はますます大きくなっています。

本授業では、インターネットに関連するサービスの概要や身の周りの情報ネットワーク機器の紹介を入口に、私たちが様々なサービスを受けるために、その裏の見えないところで、どのような決まりに基づき、情報のやりとりが行われているかを学習します。一緒にネットワークの裏側を覗いてみましょう。



## 中国語Ⅰ('14)・中国語Ⅱ('14)

東京大学大学院教授 木村 英樹 (放送大学客員教授) 放送大学准教授 (人間と文化) 宮本 徹



木村 英樹 教授



宮本 徹 准教授

両科目は現在放送中の「中国語入門Ⅰ('10)」・同「Ⅱ」の後継科目ですが、構成上、少々変更を加えた点があります。中国語には以前、「中国語基礎」という中級レベルの授業がありましたが、当該科目が2011年度で閉講されましたので、その缺を補うために新しい科目では最終的な到達度を従来の「入門Ⅱ」よりも若干引き上げ、科目名も「中国語Ⅰ」・「Ⅱ」と改めました。

「中国語Ⅰ」は平易な会話文を題材に、中国語の基本的な発音・文法・語彙を学びます。スキットは、日本人女性「小森さん」が中国人男性「李童さん」の案内で、伝統と近代化が織

りなす現在の北京を訪ねるといった興味深い内容です。

「中国語Ⅱ」では話しことばと書きことばの両方が学べるよう工夫しました。取り上げる作品は「“小花”変了」、陸定一「老山界」(一部)、そして汪曾祺「我的母親」です。初級の中国語はすでに一度学んだという方にも、ぜひとも学んでいただきたい内容です。

辞書を片手に、ぜひ一緒に中国語の海へと漕ぎ出しましょう。

## リスク社会のライフデザイン('14) —変わりゆく家族をみすえて—

放送大学教授 (生活と福祉) 宮本 みち子 聖心女子大学教授 (放送大学客員教授) 岩上 真珠



宮本 みち子 教授



岩上 真珠 教授

少子・高齢化と人口減少が急速に進み、日本は一人暮らしが主流を占める社会になりつつあります。21世紀の社会とくらしのゆくえは、家族と男女のジェンダー関係がどのように変化していくかということと極めて密接な関係にあるといわれています。結婚や親になることが自明ではなくなり、仕事の世界の流動化と合体して、生きるうえでリスクを経験する人が多くなっています。伝統や慣習や宗教が、人々の行為の指針と

はならなくなったため、それらに頼らずに、自分の意思や趣向に従って自己決定することを要求される傾向も強まっています。このような状況のなかで、どのようにくらしを紡ぎ、誰と親密な関係をつくり、困った時に助け合うのかは、私たちが直面する差し迫ったテーマとなっています。そこでこの科目では、リスク社会とは何か、変容する人々のくらしと人生をとくに家族変動に力点を置いて見ていきます。

## 都市・建築の環境とエネルギー('14)

放送大学教授 (社会と産業) 梅干野 晁



梅干野 晁 教授

これからの地球環境時代、環境負荷の小さい安全で快適かつ健康的な環境共生社会を実現しなければなりません。それには、これまでの機能性、利便性優先の都市生活に対するパラダイムシフトと、バナキュラー建築を原点とした環境と共生した都市・建築のあり方が求められます。

本講義では、このような視点に立って、街づくりに焦点を当てて、環境、特に熱環境とエネルギーについて考えます。都市・建築環境緑化や街のクールスポットの設計手法やその効果も紹介します。

脱ヒートアイランド都市とはどのような都市なのでしょう。

具体的な建築外部空間の写真や3D-CADに加えて、熱環境を可視化した赤外線カメラによる熱画像やシミュレーション結果の3D画像などを示しながら講義を進めます。目に見えない熱環境やエネルギーを少しでも感性を奮い立たせて理解していただきたい。

都市・建築、そして街の環境には、目に見えない熱、空気、音などが日常の生活を大きく規定し、街づくりと深く関わっていることに気づいてほしいと思います。

## 和歌文学の世界('14)

放送大学教授 (人間と文化) 島内 裕子 東京大学大学院教授 (放送大学客員教授) 渡部 泰明



島内 裕子 教授



渡部 泰明 教授

「和歌の心と情景」の閉講に伴って開設される、新たな、そして国文学唯一のテレビ科目です。「和歌の心と情景」はお陰様で、とても多くの方々に受講していただき、授業評価も非常に高く、うれしい限りでした。その経験を踏まえて、さらに御期待に添えるよう、わかりやすく、充実した科目作成に向けて、全力で取り組みました。全15回の構成を、一新していますので、既に「和歌の心と情景」を履修した皆さんも、ぜひ履修して下さい。和歌に詠まれた地名である歌枕や、春霞・時雨などの自然現

象、和泉式部や西行の恋歌、『源氏物語』や『伊勢物語』の和歌、近世の歌論など、多角的に和歌の世界を取り上げます。絵画と漢詩と和歌が一体となった絵巻物、近代の樋口一葉や斎藤茂吉、さらには現代の前衛短歌まで、各地でのロケも満載で、テレビ科目ならではの楽しい授業です。時代と共に変化する表現技法と、時代を超えて続く「うたの心」。多くの皆さんに、このことを、実感していただければ幸いです。

## 場と時間空間の物理('14) —電気、磁気、重力と相対性理論—

放送大学教授 (自然と環境) 米谷 民明 放送大学教授 (自然と環境) 岸根 順一郎



米谷 民明 教授



岸根 順一郎 教授

本科目では、自然界の基本的な力としての、電気、磁気、重力を取り扱います。物理の専門科目としては、2013年度に開設した「力と運動の物理」に続いて履修していただくべきものです。「初歩からの物理学」+「物理の世界」で学ぶのと同程度以上の知識を持っていて、より高度な立場からこれらの基本的力の理論と応用、さらに力と運動の性質に密接に関係した時間空間の理論としての相対性理論を学びたい学生さんが対象です。専門科目ですので、ベクトルや微分積分

の計算、微分方程式など、数学的な知識は前提です。前半は普通の大学のカリキュラムでは電磁気学に相当する内容を盛り込みます。後半では、特殊相対性理論、相対論的電磁力学、一般相対性理論の基礎、と進みます。専門科目として十分に豊富な題材を取り上げ、出来るだけ最新のトピックスとも関連させた内容になるように工夫した授業を行います。多数の意欲にあふれた学生さんの受講を期待しています。

## 途上国を考える('14)

放送大学教授 (社会と産業) 高木 保興 放送大学教授 (社会と産業) 河合 明宣



高木 保興 教授



河合 明宣 教授

国民国家としてのまとまりに欠けることが、絶えず政治問題に悩まされ長期にわたる工業化に邁進できない主要因であり、それは植民地時代の分割統治にまで遡ることができます。しかし、今日の先進国は、途上国をあたかもまとまりのある国民国家のように扱い、さまざまな要求を繰り返しています。自国が国民国家としてのまとまりを手にするまで相当の月日を要したことを忘れてしまったかのように。

存在しません。多くの人がさまざまな主張を展開しています。この講義で、私は自らの主張とともに、たくさんの問題点を提起します。みなさんも一緒に考えてみてください。

東アジア諸国の現状を河合先生が静止画と動画によって紹介します「アジアスナップ」のコーナーを設け、途上国を「見る」と「考える」のバランスを探ります。この開発論も未だ開発途上です。

こうすれば豊かになれるという処方箋は未だに

## 生活支援の社会福祉('14)

放送大学教授 松村 祥子 (生活健康科学プログラム) 放送大学教授 山田 知子 (生活健康科学プログラム)



松村 祥子 教授



山田 知子 教授

本来、社会福祉の目的・機能は長期的・総合的な視点にたつて、人と生活を育てることです。しかし、近年はこういった認識が薄くなって、その時々表面化したニーズに単発的・短期的に対応するだけになっているようです。このような日本の社会福祉の現状を変革するためには、生活支援を中心にすえた社会福祉の探求、「生活支援の社会福祉」が必要だと思います。

この講義は大学院科目なので、近年の生活変化と社会福祉のあり方を視野に入れながら、社会福祉の対象分析や実践と理論の関係等を示して、受講生が自らの社会福祉研究の課題と方法を見出しやすいような

構成にしました。

主任講師の他、金子光一(社会福祉史)、横山登志子(ソーシャルワーク)、埋橋孝文(国際福祉)が担当講師として、「社会福祉が生活支援の実効性をあげるためには何が必要であるか」についての見解を披露しています。

岐路に立つ日本の社会福祉が新しい時代を拓く良い道筋を見出せるように、社会福祉の政策・制度の形成・実施に携わる人、福祉実践をしている人、そして利用者の立場も含めて多くの方がこの講義を受講し、さまざまな方向から社会福祉研究に取り組まれることを期待しています。

## 中世・ルネサンス文学('14)

放送大学教授 宮下 志朗 (人文学プログラム) 放送大学准教授 井口 篤 (人文学プログラム)



宮下 志朗 教授



井口 篤 准教授

一般に「中世」や「ルネサンス」と呼び習わされている時代について漠然としたイメージをもっている人は多いと思いますが、実際にこの時代に書かれた文学作品を精読したことのある人は少ないのではないのでしょうか。本講義では、中世・ルネサンス文学の専門家たちが、特定の作品を分析しながら同時代の文化の諸相に迫ります。アベラールとエロイズの往復書簡を読みながら12世紀フランスの恋愛に触れ、ダンテの詩作品の荘厳な声に耳を

傾けることで、中

世後期イタリアの宗教文化についての知見を深める。シェイクスピアやラブレーなど、近代文学の始祖とも呼ばれる作家たちの強靱で繊細なことばの芸術を繙きながら、そこに近代の始まり、あるいは前近代の残滓を認める。このように、私たちの「中世・ルネサンス文学」を通して、受講者の皆さんがこの時代の複雑で刺激的な社会・文化に少しでも親しんでいただけることを熱望しています。

## 現代生物学—生物多様性の理解—('14)

放送大学教授 松本 忠夫 (自然環境科学プログラム) 放送大学教授 二河 成男 (自然環境科学プログラム)



松本 忠夫 教授



二河 成男 教授

今日見られる地球上の生物の多様性は、生命が誕生して40億年近くを経たいわば生物進化の結果の産物です。生命体はDNAとRNAという核酸を用いて、この長大な時間の中で実に巧みな情報伝達系(ゲノム)を確立し、生活内容を環境に適応させました。ところが、たった1種の生物であるヒトが異常にはびこり、残りの様々な生物に著しく大きな影響を与えてきていて、地球上から生物の多様性が急速に失われつつあります。

なぜ生物多様性が重要なのかという問いに対して

の回答は、「一度失われてしまった生物は二度とよみがえらないから」ということにつきます。そして、生物多様性を保持するには、「どんな生物も進化の遺産である」という認識が根底として必要です。

生物多様性の成り立ちの理由探究には、生物進化のメカニズムを知ると共に、個々の生物における遺伝情報の発現メカニズムを知ることがいかに大事であるかを、この科目で考えていただけたら幸いです。

放送大学叢書『日常生活の探究』刊行記念トークイベントを開催

教務課

2013年7月26日(金)に、東京・MARUZEN&ジュンク堂書店渋谷店において、放送大学叢書最新刊の刊行を記念したトークイベントが開催されました。最新刊『日常生活の探究—ライフスタイルの社会学—』の著者で、早稲田大学教授の久保孝治先生、社会学者で早稲田大学教授の長谷正人先生、社会経済学者で放送大学教授の坂井素思教授の3人により、わたしたちの〈日常生活〉はどのようなものであったか、これからどのようなものであるべきか、などについて語り合っていました。会場はすぐに満席となり、イベントは和気あいあいとした雰囲気の中で進められました。参加者の皆さんは、集中して先生方のお話に聞き入っている様子でした。質疑応答の時間には参加者から多くの質問が寄せられ、先生方も熱心にお話くださり、盛況のうちに閉会となりました。



(左から)坂井素思先生、久保孝治先生、長谷正人先生

学生募集—教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生

広報課・学生課

2014年度第1学期の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	2013年12月1日～2014年2月28日
合否通知等	2013年12月中旬～2014年3月中旬
学費の納入	2013年12月中旬～2014年3月末
入学許可通知	2014年1月中旬～2014年3月末
印刷教材等の配送	2014年2月中旬～2014年3月末
授業開始	2014年4月1日

放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお勧めいただきますようお願い申し上げます。

2014年3月末をもって学籍が切れる学生の方で、2014年度第1学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学料が割引になります。

継続入学手続きがシステムWAKABAからできます。

[システムWAKABA](#) > [ログイン](#) > [継続入学申請](#)

自宅からも読める! 電子ブックを使ってみませんか?

附属図書館

附属図書館では紙の本だけではなく、パソコンを使って読むことができる電子ブックを約4万5千タイトル(和書約5,600、洋書約39,400)提供しています。これらの電子ブックは本部図書館や学習センターにあるパソコンはもちろん、インターネットに接続されたパソコンがあれば、ご自宅等から読むことができます。利用方法は、図書館ホームページ(<http://lib.ouj.ac.jp>)の「電子ブック・電子ジャーナル」の項目や、同ホームページに掲載の「リブナビ2013-図書館使いこなしガイド」(図書館ホームページに掲載。本部図書館・学習センターでも配付しています)P.22-23を参考にしてください。学習・研究の参考図書として、電子ブックをぜひご活用ください。



2013(平成25)年度放送大学学位記授与式について

総務課

2013(平成25)年度学位記授与式の日程が次のとおり決まりましたので、お知らせします。

日時:2014年3月21日(金)午前11時00分から  
場所:NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)

編集後記

本号は放送大学30周年記念の特集記事を盛りだくさん載せています。OBの先生方からの様々な感想や思い出が寄せられていますし、盛大に開催された記念式典については、会場での出席者からの一言や記念シンポジウムの記事を通して雰囲気をお伝えできればと思っています。

編集集中に大学院博士後期課程の設置認可という大きなニュースが入りました。博士課程の特集第1報として、急遽、学長からのメッセージと学生募集情報を冒頭に組み込みました。放送大学は30周年という節目にまた新たな一歩を踏み出すことになったわけです。(米谷 民明)

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2013年度)

- |        |     |        |
|--------|-----|--------|
| 委員長    | 教授  | 島内 裕子  |
| 副委員長   | 教授  | 高木 保興  |
| 委員     | 副学長 | 吉田 光男  |
|        | 教授  | 宮本 みち子 |
|        | 教授  | 青山 昌文  |
|        | 教授  | 米谷 民明  |
|        | 准教授 | 岡崎 友典  |
|        | 准教授 | 森本 容介  |
| 編集事務担当 |     | 総務部広報課 |



放送大学

<http://www.ouj.ac.jp/> ISSN 1343-3369

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス [editor@ouj.ac.jp](mailto:editor@ouj.ac.jp)